

寛永寺：根本中堂

寛永寺の根本中堂は 350 年以上前に建立されたものですが、1879 年に現在の場所に移されました。初めは 1638 年に川越の喜多院の本地堂として建てられました。現在の埼玉県川越市です。寛永寺はその地で幾世紀にもわたって役目を果たしていましたが、1868 年に災害に見舞われました。元々の本堂と他のほとんどの建造物が、明治天皇（1852～1912 年）に忠誠を誓う軍によって焼き払われたのです。皇親軍が寛永寺とつながりの深い徳川幕府を倒した後のことでした。10 年ほど後、寛永寺の元僧や信者が寺を再興しようとしたのですが、本堂が無かったため難航しました。

そこで、寛永寺の僧は喜多院に助けを求めました。寛永寺の開祖である天海（1536?～1643 年）は、将軍徳川家康（1543～1616 年）の参謀になる前は喜多院の僧でした。日本の歴史上、最も影響力のある仏教関係者となったのです。それ以来、喜多院と寛永寺の関係は深いものでしたから、困難に見舞われた寛永寺の僧が喜多院の本堂を寛永寺に寄進してほしいという驚くべき要請を行った時、住職は同意しました。本地堂は注意深く分解されて舟に載せられ、川を下ってはるばる東京へと運ばれました。寛永寺が 1868 年以降消し去られた広大な土地の片隅で本堂は再構築されました。ちょうど、上野公園の北にあります。寛永寺の根本中堂として 1879 年に開かれました。入母屋造で塗装されていない壁は、日本の典型的な伝統建築です。本尊は、寛永寺が属する天台宗派の開祖と信じられている最澄（767～822 年）によって掘られたものとされています。